

Forest通信 令和2年 11

No.381

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山の生きものたち

モズ (モズ科)



丸い頭、ふっくらした身体が愛らしい。全長20cm程で、頭が茶褐色、胸から腹は白みがあった茶色をし、尾が長い。開けた森林や里山、河原などに棲み、秋になると単独で行動し、縄張り確保のため「キークーキークー」と響くように鳴く。よく木の枝などにとまって、尾をくるくる回しながら地上の餌を探している。

餌は、昆虫のほかカエルやトカゲなどで、時には小鳥まで捕らえる。捕らえた獲物をすぐに食べないで、とがった木の枝などに刺しておくことがある。「モズのはやにえ」と呼ばれ、餌の少ない冬を過ごすために捕っておく本能のようだ。割と小さな鳥だが、様々な動物が棲む豊かな自然環境で、タカのようにたくましく生きている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.56

スギ (ヒノキ科)

前回紹介した「屋久杉」、「鉄肥スギ」に続き、九州の三大美林「日田スギ」を紹介します。

「日田スギ」

大分県の日田地方で600年前に梅野神社が社殿を再建した際に、杉を植えたことが始まりとされています。

日田スギは、表面はかたく、赤身の部分が多く、害虫や湿気による被害を受けにくい特徴があり、木目は細かく、赤身は濃く、艶もあり、建材として用いられています。

さらに、軽くてクッション性があり、強度もあるという特徴もあり、下駄の材料に大変適した素材で、日田下駄は足触りが優しく、履いていて疲れにくい特徴があります。

さて、皆さんご存じの日本書紀には、樹木にまつわる面白い神話があります。スサノオノミコトが抜いて撒いた鬚はスギに、胸毛はヒノキに、尻毛はマキに、眉毛はクスになったと。さらに「ス

ギとクスは舟を、ヒノキは宮殿を、マキは棺を造るのによい」と命じたと書かれています。

この神話は、昔から日本人は樹木を大切にしていた証ではないでしょうか。(皿)



日田杉で作られた日本一の杉げた
写真：天領日田はきもの資料館HPより



スサノオノミコト
(イメージ)

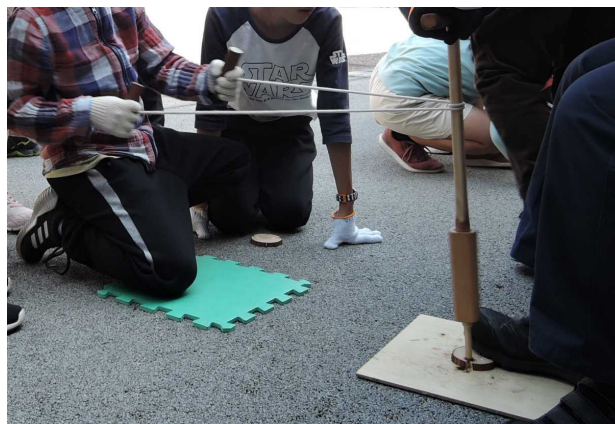
森林教室 八王子市立 第三小学校

10月2日（金）に八王子市立第三小学校5年生104名の森林教室を開催しました。

コロナウイルス感染症のため、予定していた多くの森林教室が中止となり、今回が今年度初めての森林教室となりました。昨年の台風19号により森林教室の拠点施設「森林ふれあい館」が被害を受け使用できない状況のため、当日は、高尾森林ふれあい推進センターで、森林学習及び丸太切り、火起こし体験を3グループに分け、交代で実施しました。

児童達は、森林学習で森林の働きや重要性、高尾山の動物・植物等について学び、丸太切り、火起こしでは日頃できない体験を楽しんでいました。特に火起こし体験は、森林教室のメニューとして実施するのは初めてであったため、職員は事前に何度も練習を重ね当日の森林教室に臨みましたが、なかなか火がつかず（種火ができません）四苦八苦しましたが、2～3割程度の児童が成功し、火がつく度にあがる大きな歓声で職員は安堵し、また、各班から「もう少しもう少し。頑張れ頑張れ」という声に、職員も大きなかけ声をかけていました。

今回の森林教室では、児童達の素直さ、まとまりの良さ、仲間意識の強さを感じられ、清々しい気持ちで今年度初めての森林教室を終えることができました。（谷）



はじめての火起こし体験



鋸が上手に使えるようになりました

森林教室 八王子市立 片倉台小学校

10月9日（金）に八王子市立片倉台小学校5年生41名の森林教室を、日影沢キャンプ場で実施しました。台風の影響で雨降りとなってしまいましたが、学校側の開催意向もあり、予定を変更して森林観察のみ行うこととしました。

開会式後、児童は全員ポンチョを着て4班に分かれ出発。天然林と人工林の違い、人工林の間伐、治山ダム役割など森林・林業の役割について現地を見ながら説明を聞き、葉や樹皮を触ったり、葉の香り確かめたりしながら植物の特徴などを学びました。サワガニや、ミズを飲み込んでいる最中のクガビルに遭遇する班もあり、閉会式では児童代表から「日頃見ることのできない貴重な体験ができました」との感想をいただきました。

未実施となっていたプログラム「森林の働きについての学習」と「丸太切り」については、10月27日（火）に学校へ出向いての実施となりました。

児童たちは事前学習していたようで、職員からの質問にもすらすらと答える児童達に職員一同驚き。

丸太切りは苦戦した児童もいましたが、薄く切った輪切りを光に透かしてみたり、年輪を数えたりして楽しんでもらえたようです。（高）



4班に分かれ森林観察



上手に切れるかな

森林カレッジⅢ

木の成長と仕組み

10月10日（土）に森林カレッジⅢを実施しました。当日は台風が接近するとの情報により、実施場所を変更、森林内での林業体験はあきらめ、センター展示室での講義のみとなりました。

残念ながら参加者も半数が欠席となり、少し寂しいカレッジとなりましたが、元多摩森林科学園園長の三輪雄四郎先生の講義「木の成長としくみ」が始まると、参加者の皆さんの真剣なまなざしに押されるように先生のお話にも熱がこもってきました。

木はどのように生長していくのか、木の比重、構造等について普段身の回りに沢山ある木材ですが、意外と知らないことが多く参加者の皆さんも驚いている様子でした。講義の終了後にも多くの質問があり、木に対する興味の深さがうかがえました。

午後からは、希望される方を対象に「クラフト体験」を実施しました。参加された方はドングリ、松ぼっくり、枝、木片などの素材を使い、個性たっぶりの作品を作りあげていました。

また、今年度より新たに追加された「火起こし体験」も希望される方がいましたので実施したところ「縄文時代にタイムスリップしたみたい！」「火の有り難さを感じた」などの感想をいただきました。

今回は荒天によりプログラムの変更を余儀なくされましたが、次回（カレッジⅣ）は好天に恵まれることを願いつつ閉会となりました。（磯）



熱心に耳を傾ける受講生の皆さん



実験も交えて木の比重などを実感



午後の「クラフト体験」参加者



火起こしに熱中



講師の三輪先生もマスクをして講義

出前森林教室 八王子市立 七国小学校

10月31日(土)に八王子市立七国小学校5年生147名を対象とした出前森林教室を七国小学校の体育館と校庭を使って実施しました。

新型コロナウイルス対策として3密を避けるため、児童を森林学習と丸太切りの2組に分け、それぞれ1時間ごとのでプログラムを交替で行いました。

雲ひとつない秋晴れの中「初めてのこぎり使うよ」という児童も楽しそうに丸太を輪切りにしていました。たまたま節のあるところに鋸を入れてしまった児童は「全然切れない!!」と嘆いていましたが、最後までやり遂げ、同じ班の子たちから歓声があがりました。交代した後半の児童たちは体育館の中で動かなかった反動なのか、ものすごい勢いで切っていました。用意していた2m以上ある丸太も、切り終えた後は最後は1mほどになっていました。

森林学習では、主に地球温暖化と森林の働きを学習しました。事前にたくさん勉強しているようで、高尾山の昆虫の種類数を答え、天然林の説明までしてしまう生徒たちを前に、講師をしている職員も驚きを隠せませんでした。

最後の質問コーナーでも「高尾山の動物の種類数」や「高尾山でお花がたくさん見られる場所はどこ?」と言った高尾山にまつわる質問の他に「二酸化炭素が増えると温暖化だけど酸素が増えるとどうなるの?」と少し違う切り口で質問する

児童もいました。素直ないい質問だと思いました。無事に森林教室を終えましたが、早く森の中で実施できる日が来るといいなと思います。(岩)



森林のはたらきや林業について学習



丸太って重い!

実りの季節を迎えています



ツルギキョウ



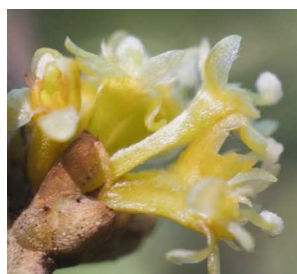
サネカズラ



ウド

編集後記

花の少ない季節ですが、シロダモの花は今が満開。赤い実は目立つのですが、花は小さく淡い色なので気がつかない方も多いと思います。



シロダモの花

Forest通信 NO.381

発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>